

提出日：令和 3年 3月 5日

所 属：生命・環境科学部 教職課程

氏 名： 小玉 敏也 職位： 教授

役 職： 教職課程主任

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

担当する教育活動は、全学科の学生を対象とした教職課程及び環境教育を専攻する学科の学生と大学院の学生を対象とする。前者については、教員免許を取得する学生と教員を志望する学生の教職に関する基本的な教養と資質・能力を育成することに責任を負い、後者については環境教育の現場で生きがいを持って働く社会人と、環境マインドを持った理科/農業教員の養成に責任を負っている。（令和2年度実績）

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
教育職概論	教職課程	必	1	41
教育法概論	教職課程	必	1	41
特別活動論	教職課程	必	3	32
教職実践演習	教職課程	必	4	31
教育実習指導 I・II	教職課程	必	4	31
卒論論文	環境科学科	選	3・4	5
卒業論文	動物応用科学科	必	4	2
科学技術英語	環境科学科	選	3	3
科学の伝達	動物応用科学科	選	4	2
環境教育特論	環境保健学研究科	選	M1	5
科学者・研究者論	環境保健学研究科	選	M1	10
環境教育学特別実験	環境保健学研究科	必	M1	1
環境教育学特別演習	環境保健学研究科	必	M1	1

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

教育の理念は、環境マインドを持った教育人財を育成することにある。本学での授業を基盤として、在学中から一般社会に積極的に関与させ、論理的/批判的な思考力、体験活動を通じた実践力、現場往還型の研究能力を身に付けさせたい。

その能力を育成するために、教職課程では教育実習を目途とした主体的・対話的な授業に取組み、研究室ではインターンやボランティアを通じた実践的な授業と事例研究に取り組んでいる。また、これらの取組みを通じて、社会人に必要な基本的な礼儀や態度等も教えている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

(1)教職課程授業での教育方法

4 学年で約 120 名の学生を対象としている。4 年次の教育実習を目標として、教員としての専門的能力（教科指導力・教育技術等）と社会人基礎力（対人関係能力・コミュニケーション能力等）を同時に育てることから、異質集団によるグループワーク、対話と合意形成の能力、人の心理を読み取る力、スピーチ能力等を育成する教育方法を活用してきた。

(2)研究室での教育方法

校内での講義・演習と学外での体験実習・ボランティアを組み合わせ合わせた教育方法を活用してきた。講義・演習では正確に論文を読解できる能力と表現できる言語能力を育てる。そこで身につけた能力を、実習の現場で考え、生かし、体験しながら更に鍛えていきたい。この2種の教育活動を往還的に経験させながら、質的に高めるスパイラルな教育方法を活用している。

アクティブラーニングについての取組

- ① 授業中のグループワーク、ディスカッション、模擬授業。
- ② 授業時における学習指導案づくりと発表。
- ③ 卒論制作過程での協力企業・団体でのボランティア・インターン

ICT の教育への活用

- ① Google meet を活用したブレイクアウト・セッション
- ② Power Point を活用したプレゼンテーション
- ③ 学理を活用した資料保管、課題提出、試験のフィードバック

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

・ Google meet で対面指揮の授業を実施してきた。教員の講義だけでなく、映像の視聴、学生同士のディスカッション、レポートの作成など、多彩な方法を組み込んで授業を行なった。

②学生の理解度の把握（A）

・ 毎回のレポートで把握した。授業目標に到達したレポートは、次回の授業で紹介して学生間の波及効果をねらった。

③学生の自学自習を促すための工夫（C）

・ 15 回中 3 回、指定教科書を事前・事後に読んでレポートを課していた。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

・ 質問が出るような授業の工夫をしており、実際に丁寧に対応してきた。特に 1 年生は、メンタルヘルスに関して心配していたので、授業後に相談事に乗っていた。

⑤双方向授業への工夫（A）

・ 対話式の Google meet 授業によって、学生を指名したり、学生間でディスカッションの場を作ったり、学生からの好評だった。授業への集中力も高まった。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

基本的には、自分自身の手応えと学生による授業評価を踏まえて、常時改善を図っている。本年度は、新型コロナ問題が学生に大きな影響を与えたので、受講者の心理状態（メンタルヘルス・経済状態）を十分に勘案しながら授業を行ってきた。新型コロナ問題の有無に関わらず、教員側は受講者の心理への配慮を基本的な姿勢として持ち続けるべきであるとする。上記③については、学科の授業との両立を図るために、授業時間内で完結する学習を想定しているので予習・復習を強く促していない。その判断は、学生の学修生活全体を俯瞰した場合、ベターな方策と考えている。

5. 学生授業評価

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

・新型コロナの影響で、突然始まったリモート授業に関して、自分自身が不慣れだったために、前期の授業について Google meet の操作について難があり学生から若干の指摘を受けた。

② ①の結果はどうでしたか。

・後期の授業では、操作に習熟したので円滑な授業運営ができ、学生からの評価も高かった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

・次年度は、1回の授業において対面とリモートを併用する授業が実施されるので、本年度にはなかった新たな工夫と配慮が求められる。学生から出される前期の評価を踏まえて、後期に改善を図っていききたい。あわせて、併用型授業を円滑に進めるための教育機器の整備も行っていきたい。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

・「成績の向上」＝「資質・能力の育成」と理解した場合、教職課程の授業では、4年次の教育実習で、専門的な力量と社会人基礎力を十分に発揮できることを目標としているので、それに向けて関係教員と事務職員と協力しながら質の高い教育活動を行っていくことに尽きる。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

・例年、4年間履修してきた学生のほぼ全員が、教職免許を取得できていること。教育実習で、実習校の指導教員から適切な助言をいただき、学生の成長に繋がっていること。

・教員採用試験に現役合格する学生は、非常に少ない現状だが、卒業後に臨時採用教員になった OB/OG から正式採用の知らせが1年に数件届いていること。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

・参加している。ただし、自身の職務や研究とかけ離れた理系固有の研修は欠席することもある。欠席した場合は、可能な限り動画を見て出席の報告をしている。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

- (1) 最新の教育時事や理論を反映した質の高い授業を実施していく。
- (2) 関連部局と協力して、教員採用試験の受験者と合格者を増加させたい。
- (3) 社会に出て、環境教育を仕事に活躍する学生を育てたい。
- (4) 環境教育を専門とする研究者の卵を一人でも多く育てたい。

9. 添付資料（根拠資料）

- ・ 學理における授業評価、課題・テストへの回答結果、最終レポート結果、アンケート等
- ・ シラバス（授業内容等）
- ・ キャンパスプラン（履修状況・成績評価）
- ・ 講義資料（パワーポイント・レジュメ等）
- ・ 卒論指導学生が提出した卒業論文要旨・卒業論文（卒論指導成果）